

施政方針の内容

希望と共に引き継がれる まちづくりの推進に尽力

令和5年度の町政の進む方向を決める、第1回町議会定例会が2月10日から3月10日まで開かれ、5年度的一般会計予算などが原案どおり可決されました。初日には佐藤信逸町長が施政方針を述べ、「東日本大震災からの復興を遂げた町が、未来を担う子どもたちへ希望と共に引き継がれるまちづくりのため、各種取り組みの推進に尽力していきます」と、第9次総合計画後期基本計画を軸に、本年度の施政方針を発表しました。ここでは、施政方針の主な内容と5年度予算の中心を紹介します。



施政方針を述べる佐藤信逸町長

令和5年第1回町議会定例会の開会に当たり、町政運営に取り組む私の所信の一端と主要施策を申し上げ、町民並びに議員の皆さま方のご理解とご協力をいただきます。

◆はじめに

新型コロナウイルス感染症との闘いが始まってから3年が経過するも依然として収束が見通せない感染の拡大、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に端を発した社会情勢の不安やエネルギー・生活関連物資の価格高騰など、私たちの生活は今もなお大きな影響を受けています。このような状況の中、感染防止対策事業や事業経営の維持・継続、地域経済の活性化策など、町民の皆さまに寄り添った効果的な事業を実施してきました。令和5年度は「第9次総合計画後期基本計画」の3年目です。引き続き3期目の重点施策として掲げた公約の着実な推進に尽力していきます。新型コロナウイルス感染症対策では、

国の情報を注視しながら、引き続きワクチン接種を進めるなど、感染拡大防止に努めます。また、「ウイズコロナ」を見据えた地域の経済と活力を向上させる取り組みに努めます。

これまで国へ強く要望してきた山田北ICのフル化は、昨年、国直轄事業として採択されました。三陸沿岸道路は、産業、観光、防災など、多方面で大きな役割を担うものです。整備効果を最大限に活用するため、山田北IC周辺の活性化策を検討し、工業団地の整備や企業誘致に取り組むなど、働く場の確保に向けた取り組みを推進していきます。

新・道の駅やまだ「おいすた」の整備は、今年7月の開業に向け着実に進めていきます。

「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」による災害が危惧されている中で、先般、岩手県が公表した「最大クラスの津波浸水想定」では、本庁舎と周辺の主要施設の浸水が想定されています。新庁舎建設の検討は、昨年6月に設置した「山田町新庁舎建設庁内プロジェクトチーム」を軸に、現庁舎の課題の整理や他自治体の整備事例などの研究を行ってきたところです。令和5年度も行政サービスや防災の拠点となる庁舎の在り方、財源の確保を含めた整備の方向性など、引き続き検討を進めていきます。

以下、総合計画の各分野に沿って、令和5年度に展開する主要な施策を申し上げます。

健康と福祉の充実・結婚支援と子育て支援

地域共生社会の実現目指す

◆健康と福祉の充実

健康づくりに対しては、「第3期健康やまだ21プラン」に基づき、健康寿命の延伸を図るため重要となる、運動や食事の生活改善等を目的とした生活習慣病予防事業や減塩食の普及などに取り組み、若年期から望ましい食習慣を身に付けるため、小・中・高校生を対象にした講話や調理体験等を取り入れた「食育出前講座」を実施するなど、

生活習慣病予防の普及啓発活動に努めていきます。

乳幼児・児童生徒、妊産婦、重度心身障害者、ひとり親家庭などに対しては、引き続き医療費助成を行い、経済的負担の軽減を図っていきます。

令和6年度にスタートする「第2期地域福祉計画」と「障がい者福祉計画」の策定に着手し、全ての住民がそれぞれの立場で活躍できるように、地域住民や関係機関と連携し、共に支え、共に生きる地域共生社会の実現を目指していきます。

「第8期介護保険事業計画」に基づき、介護予防の推進、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくりを努め、地域包括ケアシステムの推進に向けて、令和6年度からスタートする「第9期介護保険事業計画」を策定していきます。

◆結婚支援と子育て支援

新婚世帯の新生活を応援する「結婚新生活サポート事業」を継続するほか、妊娠期から子育て期にわたる総合的な支援では、安心して出産を迎え子育てができるよう、これまでの子育て世代包括支援事業に加え、「出産・子育て応援事業」により、妊婦・子育て家庭に寄り添った伴走型相談支援と給付金による経済的支援を一体的に実施して

いきます。妊産婦健診や出産にかかる通院費のうち、タクシー代の一部を助成することにより、通院時の妊産婦の安全を確保すると共に、経済的負担の軽減を図ります。

妊産婦と子育て世帯には、「子ども家庭総合支援拠点」を中心に、支援員による育児困難や児童虐待の相談などを通じ、精神的な負担の軽減に努めていきます。

山田小学校の新校舎建設に伴い、隣接地に「山田小学校放課後児童クラブ」の建設工事に着手していきます。

移住定住支援・住民主体のまちづくり

豊間根地区集会施設整備に着手

◆移住定住支援

若い世代の移住人口の増加を図るため、町内での就業を条件とした「奨学金返還支援事業」や移住者の住宅リフォーム経費を継続して支援するなど、町内への移住・定住を促進していきます。空き家バンクなどによる住まい支援、移住お試し住宅による移住体験機会の提供や、U・Iターンを促進するため、県内外でのPR活動を行っていきます。

◆住民主体のまちづくり

災害公営住宅などでのコミュニティづくりは、コミュニティ形成支援員を配置し、住民による自治組織の形成と

運営が円滑に進められるよう支援を行っていきます。自治組織の活動を支援する「住民協働推進支援事業補助金」は、対象事業を拡充し、地域の自主的な取り組みを後押ししていきます。

豊間根地区の新たなコミュニティ集会施設整備は、地域の意見集約が図られたことから、新施設の設計と建設場所となる旧豊間根中学校校舎の解体に着手していきます。

「山田町民提案型まちづくり事業」は、町民の思いを形にするまちづくりを実現し、地域の持続可能な活動と活性化を図る補助事業として、引き続き実施していきます。



支援員による相談対応の様子



令和5年度の町の予算などが決められた第1回町議会定例会。29日間開会されました

安全で安心な施設整備を実現

◆交通網

町道に対しては、田の浜地区の前須賀・タブの木荘線の舗装改修のほか、山の内・前須賀線及び馬指野1号線の改良工事を進めていきます。町道などの維持補修は、その緊急性、必要性を考慮しながら、引き続き適切な実施に努めます。

老朽化した橋りょうの補修工事は、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、順次進め、関谷橋は拡幅改良などのため調査事業を進めていきます。

三陸鉄道リアス線は、県と沿線市町村で構成する「三陸鉄道強化促進協議



本年度施設整備を行う船越公園

会」と連携し、地域の特性を生かした企画列車を運行するなど、利用促進に努めます。

路線バスなどの公共交通に対しては、より利便性の高い公共交通の構築に向け、新たなマスタープランとなる「山田町地域公共交通計画」の策定を進めていきます。

◆住環境の整備

「柳沢北浜地区土地区画整理事業」に対しては、事業完了に向け、換地計画の策定と換地処分を進めていきます。

船越公園は、鯨と海の科学館付近の園路舗装工事を実施するほか、入江田沼への侵入と転落を防止するため周囲を植栽するなど、安全で安心な施設整備に取り組んでいきます。

町営住宅に対しては、入居者が安全・安心で快適な暮らしができるよう適正かつ円滑な管理運営に努めます。

令和4年度に創設した「住宅建築促進事業」は、新築工事やリフォーム工事など住宅の建築工事に対する経費の一部助成を引き続き実施していきます。林道沢田線は、路面の舗装、幅員の拡幅改良による道路整備を図るほか、雨水排水対策として排水路の改修工事を進めていきます。

水道事業では、老朽化した水道管と水道施設の更新事業を実施し、安全で

安心できる良質な水道水の安定供給、効率的な施設管理に努め、経営戦略に基づき、経営安定に向けた取り組みを進めていきます。

下水道事業は、引き続き柳沢地区の整備を推進するとともに、住民生活に必要なサービスを安定的に提供できるよう、公共下水道事業特別会計と漁業

水産業・農業・商工業・観光の振興

新・道の駅を拠点とする魅力発信

◆水産業の振興

水産業に対しては、海洋環境の変化により主要魚種の不漁や魚種の変化、海藻不足による磯根資源への影響、物価高騰など取り巻く環境は厳しいものとなっております。この海洋環境の変化による影響を緩和するため、引き続き「つくり育てる漁業」を推進するとともに、気象状況に影響されにくい新たな養殖手法などの研究・検討を進めていきます。

磯根資源の回復と漁業所得の向上を図るため、漁協が行うアワビとナマコの種苗放流事業に対しては、令和5年度も全額補助を行うとともに、ナマコ種苗の放流効果や放流手法を検証する「ナマコ資源造成試験事業」を新たに実施し、ナマコ資源の造成が図られるよう漁協や漁業者と連携し取り組んでいきます。

水産物の品質や衛生管理の向上を図

集落排水処理事業特別会計の令和6年4月からの公営企業会計移行に向けた取り組みを進めていきます。

下水道接続補助制度は、町民の負担軽減と接続率の向上を図るため継続していきます。下水道等事業計画区域外では、引き続き浄化槽の設置補助を行っていきます。



漁場に放流される前のアワビ種苗

るため、「漁獲物品質向上支援事業」を拡充し、漁業者の各種機器導入に対

する助成を継続して行っています。主要水産物であるカキのむき身作業場の衛生強化を行う「作業保管施設衛生管理強化改修支援事業」を実施し、漁協の施設改修を支援していきます。

漁業担い手・育成対策は、漁業就業者育成協議会や「いわて水産アカデミー」と連携して担い手の確保・育成に取り組みながら、「豊かな浜の担い手育成支援事業」により、漁業後継者や新規就業者に對し助成を行っていきます。

◆農林業の振興

農業に対しては、「豊かな土づくり支援事業」により土壌診断に基づいた肥料の投入や堆肥の利用促進を図っていきます。また、田名部地区ほ場整備事業の導入に向け、事業主体である県と連携し計画調査に取り組んでいきます。

農業担い手対策に対しては、「新規就農者研修受入支援事業」により、研修受入経営体に対して助成を行うなど、引き続き新規就農者の確保と定着に向け、県や関係団体と連携していきます。

畜産業は、「繁殖素牛購入支援事業」や4年度に開始した「家畜人工授精支援事業」により、優良な親牛の導入と子牛の生産性向上による畜産農家の経営安定化を図っていきます。

現・道の駅は、新・道の駅やまだ「おいすた」の開業に伴い、道の駅の指定が解除となりますが、二つの施設が共に相乗効果を発揮できる施設となるよう取り組んでいきます。新たに展望テラスや子育て応援施設を設置するなど、全面的な改修工事を実施し、道の駅の

再登録に向け、関係機関と協議を進めていきます。

◆商工業の振興

商工業の振興に対しては、中心市街

地エリアを核とした商業地の魅力やにぎわいを創出するための取り組みを進め、山田北ICのフル化によって、周辺地域への新たな企業の進出が期待され



町の体験型観光プログラムで行った漁業体験の様子

ることから、工業団地の整備と誘致の実現に向けた「企業向け意向調査事業」を実施し、町の特色のPRと企業のニーズなどの情報収集に努めていきます。

新たな生業の創出を図る起業・創業への支援は、商工会や町内金融機関と連携しながら継続して行っていきます。町内事業所での雇用促進のため、引き続き「山田町新卒者ふるさと就職促進事業」を実施していきます。

◆観光の振興

観光の振興に対しては、新・道の駅やまだ「おいすた」の観光・道路情報室で映像を活用した効果的な情報発信を行い、相互に集客を図る一体的なイベントの開催やオランダ島をはじめとする地域の宝を活用した体験型観光プログラムの提供に努め、更なる観光誘客に取り組んでいきます。また、コロナ禍での水際対策の緩和や旅行支援により観光需要が高まりを見せている中、より多くの観光客誘致と交流人口の拡大を図るため、船越家族旅行村の施設整備を実施し、観光拠点としての魅力や機能の向上に努めます。

旧山田北小学校の利活用は、車中泊施設やドッグランなど、新・道の駅やまだ「おいすた」と連携できる施設として、検討を進めていきます。山田中央公園付近の移転元地を活用し、関係人口や交流人口の創出が図られる若者が集う「遊び場」の整備に向け、「都市型スポーツ等整備推進事業」基本計画の策定を進めていきます。

防災対策

避難体制の整備と防災意識の醸成

防災に対しては、今後起こりうるさまざまな災害から町民の生命・財産を守るため、ハザードマップを活用した啓発活動や自治会、自主防災組織などと連携した取り組みを進め、避難体制の整備と防災意識の醸成を図ります。また、経年劣化が進む防災行政無線親局を更新するほか、インターネットに

よる各種の情報伝達、同時配信を可能とする「一斉情報配信システム」を整備し、情報伝達体制を強化していきます。

火災などの防災対策では、消防水利の充実を図るため、地下式消火栓及び耐震性貯水槽の設置を計画的に進め、消防団員の確保に継続して努めます。



昨年度織笠孵化場で行われた山田小学校のサケ稚魚放流体験会の様子(地域学校協働活動)

河川周辺の水害対策は、町で管理する準用河川では早川川の改修工事を進めます。二級河川は、県に対し、しゅんせつや支障木の伐採などを引き続き

要望していきます。大沢新開地地区は、防災機能の強化を図るため、排水路の改修整備のほか、高台への避難道路の整備を進めます。

学校教育・生涯学習

魅力ある学びの場を提供

◆学校教育

令和6年8月の移転開校を目指す山田小学校の新校舎は、町の未来を担う児童たちが、希望を持って学校生活を送ることができるよう、魅力ある校舎の建設を着実に進めていきます。学校プールは、授業での使用に加え町民プールとして開放する施設として建設工事に着手していきます。

県立山田高等学校へは、関係機関と連携して、今後も将来にわたって存続・発展するよう取り組みを支援していきます。

◆生涯教育

地域学校協働活動では、地域に根ざした活動プログラムを実施し、地域活動サポーター育成講座の開催により、新しい人材の発掘や育成に努めます。

社会教育・社会体育施設は、中央コミュニティセンター屋根の改修に向けた設計のほか、鯨と海の科学館やB&G海洋センター体育館の改修工事を実施し、町民が安全に施設を利用できるよう維持管理に努めます。

◆当初予算編成

令和5年度一般会計当初予算案は、「第9次総合計画後期基本計画」に掲げる大規模事業の一つである山田小学校の新校舎建設の本格的な着工などにより、前年度と比較すると約22億円の増となる134億円となります。

財政運営に当たっては、総合計画に掲げる各種施策へ重点的に予算配分するとともに、有効な財源を活用しながら、引き続き財政健全化に向けた取り組みを進めていきます。

◆終わりに

今年7月には待ちに待った新・道の駅やまだ「おいすた」が開業します。現在営業中の道の駅もリニューアルを行い、二つの施設の相乗効果により「山田町まるごと道の駅構想」の実現に向け進めていきます。三陸海岸の中心にある当町の立地を生かした観光をはじめ各産業の振興に向けた取り組みを進め、皆さまから注目される「山田町」を実現するため職員一丸となり、町政発展に向け尽力してまいります。